

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
国立大学法人滋賀医科大学

目 次

資料 1	国家試験の結果	1
資料 2	教育改革プログラムの採択	2
資料 3	学長と学生の懇談会について	3
資料 4	全人的医療体験学習を正規科目に採用	5
資料 4	里親・プチ里親による助言体制を確立	5
資料 5	新聞記事：「医学生残って」切り札は「里親」	6
資料 6	がん専門医養成コース	7
資料 7	シミュレータを活用した体験型授業	8
資料 7	バイオ医療学に関する人材育成	8
資料 8	医学科入学定員の増員について	11
資料 9	オープンキャンパス	12
資料 10	高大連携事業	13
資料 11	基礎科学研究報告	14
資料 12	可変型シミュレータを用いた実習	18
資料 13	ウェブサイトによる学外臨床実習	19
資料 14	情報リテラシーアンケート結果	20
資料 15	授業評価結果の解析	21
資料 16	スーパーナース育成事業	22
資料 17	OSCE・臨床実習に関する評価	23
資料 18	大学院の研究紹介	24
資料 19	授業科目及び単位数（高度専門医養成部門）	25
資料 20	ICT 環境整備及び利用実績等	26
資料 21	臓器の樹脂包埋標本、3D立体画像	27
資料 22	授業評価に関するFD研修	28



資料 1

掲載日: 2010/03/29

【速報】 国家試験の結果(医師・看護師 新卒者合格率100%)

第104回医師国家試験、第96回保健師国家試験、第93回助産師国家試験及び第99回看護師国家試験の合格発表が行われ、滋賀医科大学学生(卒業生)の合格率は、次のとおりでした。

	新卒者	既卒者	総計	(全国平均)
第104回医師国家試験合格率:	100.0%	50.0%	99.0%	(89.2%)
第96回保健師国家試験合格率:	94.5%	0.0%	94.5%	(86.6%)
第93回助産師国家試験合格率:	66.7%	0.0%	66.7%	(83.1%)
第99回看護師国家試験合格率:	100.0%	100.0%	100.0%	(89.5%)

注目!! 医師及び看護師の新卒者の合格率は、100%でした。(医師は2年連続、看護師は既卒者も)

医師国家試験(過去5年の結果)

	新卒者	既卒者	総計	(全国平均)
医師(第104回)	100.0%	50.0%	99.0%	(89.2%)
医師(第103回)	100.0%	50.0%	97.0%	(91.0%)
医師(第102回)	95.0%	66.7%	94.2%	(90.6%)
医師(第101回)	100.0%	62.5%	97.1%	(87.9%)
医師(第100回)	93.6%	50.0%	91.8%	(90.0%)

保健師国家試験(過去5年の結果)

	新卒者	既卒者	総計	(全国平均)
保健師(第96回)	94.5%	0.0%	94.5%	(86.6%)
保健師(第95回)	100.0%	100.0%	100.0%	(97.7%)
保健師(第94回)	97.3%	0.0%	97.3%	(91.1%)
保健師(第93回)	100.0%	100.0%	100.0%	(99.0%)
保健師(第92回)	92.6%	75.0%	91.7%	(78.7%)

助産師国家試験(過去4年の結果)

	新卒者	既卒者	総計	(全国平均)
助産師(第93回)	66.7%	0.0%	66.7%	(83.1%)
助産師(第92回)	100.0%	0.0%	100.0%	(99.9%)
助産師(第91回)	100.0%	0.0%	100.0%	(98.1%)
助産師(第90回)	100.0%	0.0%	100.0%	(94.3%)

看護師国家試験(過去5年の結果)

	新卒者	既卒者	総計	全国平均
看護師(第99回)	100.0%	100.0%	100.0%	(89.5%)
看護師(第98回)	98.3%	100.0%	98.3%	(89.9%)
看護師(第97回)	98.4%	100.0%	98.5%	(90.3%)
看護師(第96回)	100.0%	66.7%	98.4%	(90.6%)
看護師(第95回)	93.2%	0.0%	93.2%	(88.3%)

以上

(出典: 本学HP)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

学長と学生との懇談会について

本学では、教職員の努力と学生の意欲がかみ合い、双方にとって充実感のあるキャンパスライフを創るには、学生諸君の意見や要望を聴取し、適切に大学の運営に反映させていくことが重要と考え、学長と学生との懇談会を開催しています。今年度は医学科第1～5学年及び第2学年学士編入生、看護学科第1・2・4学年の学生が出席し、修学・学生生活・学内施設に関して多くの意見や要望が出されました。関係委員会等で検討を行った内容のうち、主だった事項について以下のとおりお知らせします。

なお、基礎研究棟及び看護学科棟1階ピロティに「意見箱」を設けていますので、意見や要望をお寄せ下さい。

①

●教務関係

- 看護学科の学生は医学科との合同講義が大変なためになったので、医学科の学生にも看護学科の講義を受ける機会があればよいと思う。

時間割を編成する上で、現状の合同授業の枠が限度です。しかし、中期目標計画に記載しているように、本学として推進すべきことであり、今後検討していきたい。
- 医学科第2学年後期はしんどい、もう少し第2学年前期に専門課程を移動できればと思う。

編入生のカリキュラムのこともあり、前期にはもっていけない状況です。
- スキルラボを授業でもっと活用してほしい。また施設を拡張してほしい。

海外で臨床技術を説明を見ながらトレーニングできる施設を見学した。滋賀医大でも臨床技術と座学を一緒に勉強できるシステムがあればよいと思う。

現在、病棟再開発が進められており、新たに4A病棟に学内のシミュレーターを集めた専用スペースが配置される予定です。

これにより、学生や研修医のレベルごとに効率的な研修が行えると考えています。

(出典：本学広報誌「勢多だより」 H21.3.25発行)

学長と学生との懇談会について

本学では、教職員の努力と学生の意欲がかみ合い、双方にとって充実感のあるキャンパスライフを創るには、学生諸君の意見や要望を聴取し、適切に大学の運営に反映させていくことが重要と考え、学長と学生との懇談会を毎年開催しています。今年度は平成21年11月10日・17日に各学年2名の学生が出席し、医学科、看護学科に分けて開催しました。修学・学生生活・学内施設に関して多くの意見や要望が出されました。関係部署等で検討を行った内容のうち、主だった事項について以下のとおりお知らせします。

なお、基礎研究棟及び看護学科棟1階ピロティに「意見箱」を設けていますので、意見や要望をお寄せ下さい。

Campus Life

教務関係

②

- 医学科・看護学科合同の講義が高学年でもあればよいと思う。
医学科のカリキュラムは第2学年後期より必修科目となり、合同講義としての選択科目の入り込む余地がありません。現在開講されている合同科目を履修して下さい。

- 臨床講義棟の教室が狭い。
臨床講義棟の臨床講義室1・2教室については、今年度中に現状の前列の前にもう1列増設する予定になっています。できるだけ有効に利用できるよう整理整頓等に心がけて下さい。

- 実技の注射の練習をもっとしたかった。
ご意見は臨床実習前オリエンテーションの中の外科手技での実習のことと思いますが、OSCEの日程が決まっている以上、現状の2回のローテーションしか組めません。必要であれば、家庭医療学講座の三ツ浪教授に連絡し、4A病棟のスキルズラボ1にて行って下さい。

③

- 図書館に看護関係の本を充実してほしい。
図書館では、シラバス掲載図書や国家試験対策資料等の重点的収集を行い、また看護学分野では教員の方の推薦に基づく図書の受入れを毎年実施しているところですが、更に学生の希望を広く集め、蔵書の充実に努めていきます。(図書課より)

施設関係

- 臨床講義棟のトイレを改修してほしい。
学生用トイレの整備は年次計画的に進めているところで、臨床講義棟のトイレについては、平成22年度に整備予定になっていますので、もう少しお待ち下さい。(施設課より)

- バス停までの道が暗い。バス停でも字が読めるくらい明るくしてほしい。
バス停までの照明が暗いのは以前から問題であり、できるだけ大学病院のバス停を利用するようお願いしてきました。大学敷地外のバス停に至る市道部分の照明については、大津市に申し入れをしましたが、予算的にも他地域とのバランス等で、今すぐに対応することは難しいという回答でした。大学の敷地内からバス停への道における照明も検討していきますが、それ以外でも方策はないか検討していきます。

学生生活

- 学園祭と卒業試験の日程について検討してほしい。
学園祭は従来からこの時期に行ってきたので、授業のカリキュラムもその予定で出来あがってきています。また学園祭後に試験が実施される学年もあることも勘案すると学園祭の時期を動かすことはむずかしいと思われるますが、今後も学生の意見を取り入れて検討していきます。

- 1日中同じ教室での授業なので、気分転換になるようなことがあればよいと思う。
A・B講義室の横のスペースを整理・工夫して息抜きができるようなスペースとして利用して下さい。また昼食をテラスや中庭でとるなど各自で気分転換をはかる工夫をしてみてください。



① 人を診る医師となるための体験学習

● 全人的医療体験学習を正規科目に採用

全人的医療を実現できる医師の育成を目指し実施してきた「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」は、採択期間が平成19年度で終了しましたが、その成果を継承するため、「全人的医療体験学習」として正規科目に採用したところ、多くの学生が履修し患者訪問実習を行いました。

- 患者さんの生の声というのは、すごく心に響いてくるし、学ばせてもらうことが一言一言に含まれていると感じました。
- 今回の訪問で担当医の先生がすごく頼りにされていることがわかりました。人柄の大切さ、地域医療の大切さをじかに知ることができました。

学生の感想

- 礼儀正しく誠意をもって患者、家族に接していただきました。根気よく相手になって、何かを汲み取ろうとする態度も自然で感心しました。自主的に取り組もうとする意欲が感じられました。
- いつも明るく、家族には優しく励ましていただき、患者には優しく、帰りには握手をして一言さよならと声をかけていただきました。うれしかったです。

患者さん&ご家族の感想

- 患者、家人たちと会話がよくできて、患者に笑顔が出ていた点は非常に良かった。
- 段取りよく予定通りの訪問をこなすことができ、その後の報告もきちんとできていた。

診療所の先生の感想

※本プログラムは、平成17～19年度の文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム(医療人GP)」の支援を受けたものです。

② 地域とともに学生支援の充実を目指す

● 里親・ブチ里親による助言体制を確立

本学では、平成19年度より、地域「里親」による学生支援プログラムを実施しています。地域の医師・看護師・保健師・助産師の方々に「里親」として、また、地域に暮らす住民の方々に「ブチ里親」として協力いただき、学生との宿泊研修や交流会・FD研修会を実施しました。

■ 宿泊研修日程

- 1日目** [平成21年2月20日(金)]
- 大津赤十字病院を見学
 - 「三井寺」を拝観
 - 公立高島総合病院を訪問
 - 朽木の特別擁護老人ホーム「やまゆりの里」と朽木診療所を訪問
 - 里親の先生、高島市職員、保健師や看護師の方々との交流懇談会

朽木診療所にて



本取組は新聞で紹介されました
2008年11月24日京都新聞記事
(掲載許諾済)

- 2日目** [平成21年2月21日(土)]
- 「興聖寺」を訪問
 - まつもと整形外科を訪問
 - 新旭町「針江 生水の郷」で「かばた」を見学など

コラム かばた
町の水路が家の洗い場につながっており、澄んだ湧き水を人が生活のために利用している。



まつもと整形外科にて



※本プログラムは、平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採用されました。

(出典：本学広報誌 活動実績ダイジェスト2008-2009 H21.12)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

学生募集要項

アドミッションポリシー(入学者受入方針)

博士課程では、旺盛な創造意欲や研究意欲を持ち、また医学の発展や社会福祉の向上に熱意を持って取り組む者を求める。

募集人員

30名(社会人入学による者を含む)

生体情報解析系専攻
高次調節系専攻
再生・腫瘍解析系専攻
臓器制御系専攻
環境応答因子解析系専攻

平成21年度から全専攻に「高度専門医養成部門」を開設し、また、再生・腫瘍解析系専攻に「がんプロフェッショナル養成プランーがん専門医師養成コースー」を平成20年度から開設しています。「がんプロフェッショナル養成プランーがん専門医師養成コースー」の詳細については、別添の学生募集を参照してください。

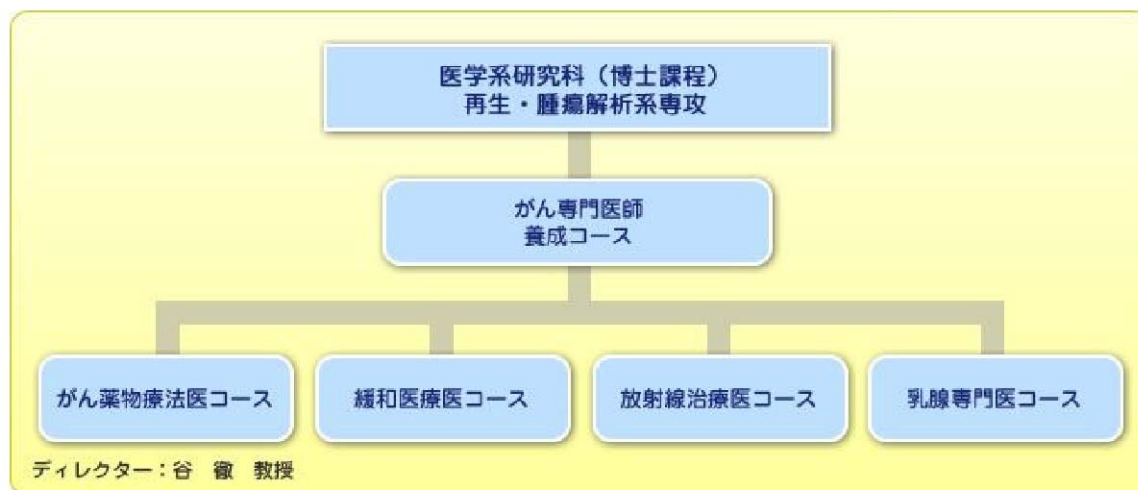
(備考) 平成16年度から、在職のままで就学を希望する社会人に対して、大学院設置基準第14条による『教育方法の特例』を適用し、「夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法による」教育を取り入れています。

滋賀医科大学大学院医学系研究科博士課程 再生・腫瘍解析系専攻
ーがん専門医師養成コースー

学生募集本コースは、京都大学、三重大学、大阪医科大学と本学において、文部科学省平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」『高度がん医療を先導する人材養成拠点』の選定を受け、がん専門医の養成を目的として、大学院医学系研究科博士課程再生・腫瘍解析系専攻の中に、がん薬物療法医コース、緩和医療医コース、放射線治療医コース、乳腺専門医コースを設置するものです。

専攻：再生・腫瘍解析系専攻

- 【がん薬物療法医コース】受入可能人員3名
- 【緩和医療医コース】受入可能人員2名
- 【放射線治療医コース】受入可能人員1名
- 【乳腺専門医コース】受入可能人員3名



(出典：本学HP「大学院博士課程学生募集要項を公表より関係箇所抜粋 H21.9)

資料 7

1

授業形態を工夫、より実践的な学習

● シミュレータ教材を活用した体験型授業の実施

臨床技能の向上のため、臨床実習や助産師課程の演習において、シミュレータ教材を活用した体験型授業を実施しています。また、医学科臨床実習開始1年後には、アドバンスOSCEを実施し、臨床技能の確認を行い、その結果を学生にフィードバックしました。

※アドバンスOSCEとは、1年間の臨床実習を終えた学生の臨床技能を評価する試験です。



医学科臨床実習



助産師課程実習

2

バイオ医療学に関する人材育成

● びわこバイオ医療大学間連携戦略プログラムの実施

本学の「医学」と長浜バイオ大学の「バイオテクノロジー」というそれぞれの得意分野を生かして新しい教育・研究分野の創設を目指しています。

連携授業・実習を行い、バイオの先端知識と病気や体の仕組みを理解した人材育成を共同で実施していきます。

平成21年度には、長浜バイオ大学修士課程修了者が、本学博士課程に進学しました。

それぞれの大学の特性を生かした
授業を提供しています



滋賀医科大学での解剖見学



長浜バイオ大学教員によるバイオインフォマティクス授業



本取組は新聞で紹介
されました
2008年9月13日京都新聞記事
(掲載許諾済)

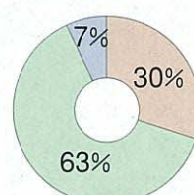
学生への連携授業アンケート(抜粋)

■ 講義内容



- 大変良かった
- 良かった
- どちらともいえない

■ 今後の研修についての希望



- もっと専門的な方が良い
- 今回程度で良い
- もっと分かりやすい方が良い

学生アンケートでは、他学科の知識に触れることで新たな勉学意欲が引き出されるという結果がでており、それを受け、今後は新たな教材を開発し、授業を展開する予定です。

※バイオインフォマティクスとは
スーパーコンピューターを駆使して膨大な遺伝子情報を解析し、病気の診断・治療に役立てるなど、情報学や応用数学、コンピュータ科学などを応用して、医学・生物学に取り組む学問領域であり、生命情報科学とも称される。

※本プログラムは、平成20年度文部科学省の「戦略的大学連携支援事業」に採択されました。

(出典：本学広報誌 活動実績ダイジェスト 2008-2009 H21.12)

③

バイオ医療学の人材育成をめざし 長浜バイオ大学と連携

「びわこバイオ医療大学間連携戦略」

分子神経科学研究センター教授

遠山 育夫

文部科学省の

「戦略的大学連携事業」に採択

生命科学の知見を基礎とするバイオテクノロジーは、21世紀の社会、経済に大きな変化と進歩をもたらすものと期待されています。

バイオ関連産業を重点産業の一つとして位置づける滋賀県では、滋賀バイオ産業推進機構を立ち上げ、滋賀医科大学と長浜バイオ大学などを学術研究拠点として、バイオ産業の創出と人材の育成に取り組んできました。

滋賀医科大学の医学と長浜バイオ大学のバイオテクノロジーという、それぞれの専門分野を生かし、大学間連携を進めていくために、このほど共同事業として「びわこバイオ医療大学間連携戦略」を立ち上げました。

さらにこの共同事業が、文部科学省の平成20年度「戦略的大学連携支援事業」に選定され、平成20年9月24日には、長浜バイオ大学の下西康嗣学長と本学の馬場忠雄学長による、事業の共同実施に関する協定書への調印式が行われました。

戦略的大学連携支援事業は、文部科学省が



滋賀医科大学と長浜バイオ大学の連携事業で調印式。
(平成20年9月25日京都新聞より)

国公立大学の連携によって、地方の大学教育の充実を成し得るような優れたプログラムに対して財政支援を行うもので、平成20年度に新規に設けられたものです。

新しい学際領域

「バイオ医療学」創出をめざして

近年、全国各地の大学で医工連携が進められています。医学とバイオサイエンスの連携は、バイオサイエンス専門の大学が少ないこともあって、まだ緒に就いたばかりです。

そんな中で、「バイオ医療学」という新しい学際領域の創出を掲げた今回の取り組みについて、地域経済の活性化をはじめ、健康・医療・介護等に関する諸問題の解決に寄与できるのではないかと期待が集まっています。

以前から、滋賀バイオ産業推進機構の主要学術拠点として交流のあった両大学が、姉妹校として大学間協定を締結したことで、一歩踏み込んだ連携が行えるようになります。

今後、医学とバイオサイエンスという特徴的な教育・研究分野で、両大学の教育研究資

源を有効活用することによって、より高い水準の特色のある教育・研究を行うことが可能になり、大学運営基盤の強化を図っていくことができます。

共同事業で知的、物的資源の 有効利用を図る

共同事業には、それぞれの特徴を生かして大学間連携を行う連携基盤事業と、将来の共同大学院設立を視野に入れた、バイオサイエンスと医学・看護学の融合した新しい教育・研究分野を共同で開発する共同大学院事業の二つの柱があります。

共同授業・連携教育では、滋賀医科大学から、解剖見学、組織実習、脳実習、医療倫理学、動物実験学などの講義を長浜バイオ大学の学生に提供します。長浜バイオ大学は、バイオインフォマテクス(生物情報学)、統計学、先端バイオテクノロジーなどの実習や講義を本学の学生に提供します。

また、バイオ医療学に関する教材の共同開発に取り組み、法律上、倫理上の課題を克服するために、人体や脳をはじめとする臓器のコンピュータグラフィック教材の開発、樹脂包埋した臓器や組織標本の作製、ゲノム情報を安全かつ簡単に利用できるシステムの開発などをめざします。

さらに教育・研究施設および設備の共同利用を実施するため、両大学の図書館の共同利用のほか、長浜バイオ大学が有するサーバーコンピュータを共同利用できるよう、両大学間のネットワーク設備の充実を図ります。

長浜バイオサイエンスパークにあるインキュベーション施設を共同で借り受け、地元バイオ産業や医療・健康産業関連企業と

バイオ医療学の人材育成をめざし長浜バイオ大学と連携
「びわこバイオ医療大学間連携戦略」

のセミナーを実施するほか、市民や高校生を対象としたバイオテクノロジー体験セミナーの共同実施も予定しています。その一環としてバイオ医療学についての理解を広めるために、去る10月24日に本学で開催された「バイオ医療学」人材育成公開講座には、学生や研究者、高校の関係者などが参加しました。

また、海外の大学との三姉妹校提携による留学生の共同受け入れ事業を実施します。長浜バイオ大学で二年間の修士課程を終えた留学生を、本学の博士課程で引き続き教育できるようにいたします。すでに中華人民共和国の中国医科大学と東北大学を訪問、学術交流などについて話し合いを行いました。

バイオ医療学の専門家を育てる
共同大学院を新設

また、共同大学院事業では、共同大学院の新設を視野にいれて、バイオ医療という学際領域の創世と、高度な知識を身につけた人材の育成に共同で取り組んでいきます。

今日の医学の発展にバイオテクノロジーは不可欠ではありますが、バイオサイエンスで扱う遺伝子データは、一兆×一万バイトという膨大な量であることから、これまでのように医学研究の延長として行うことは難しく、膨大なデータを取り扱う新たな専門家集団が必要になっていきます。

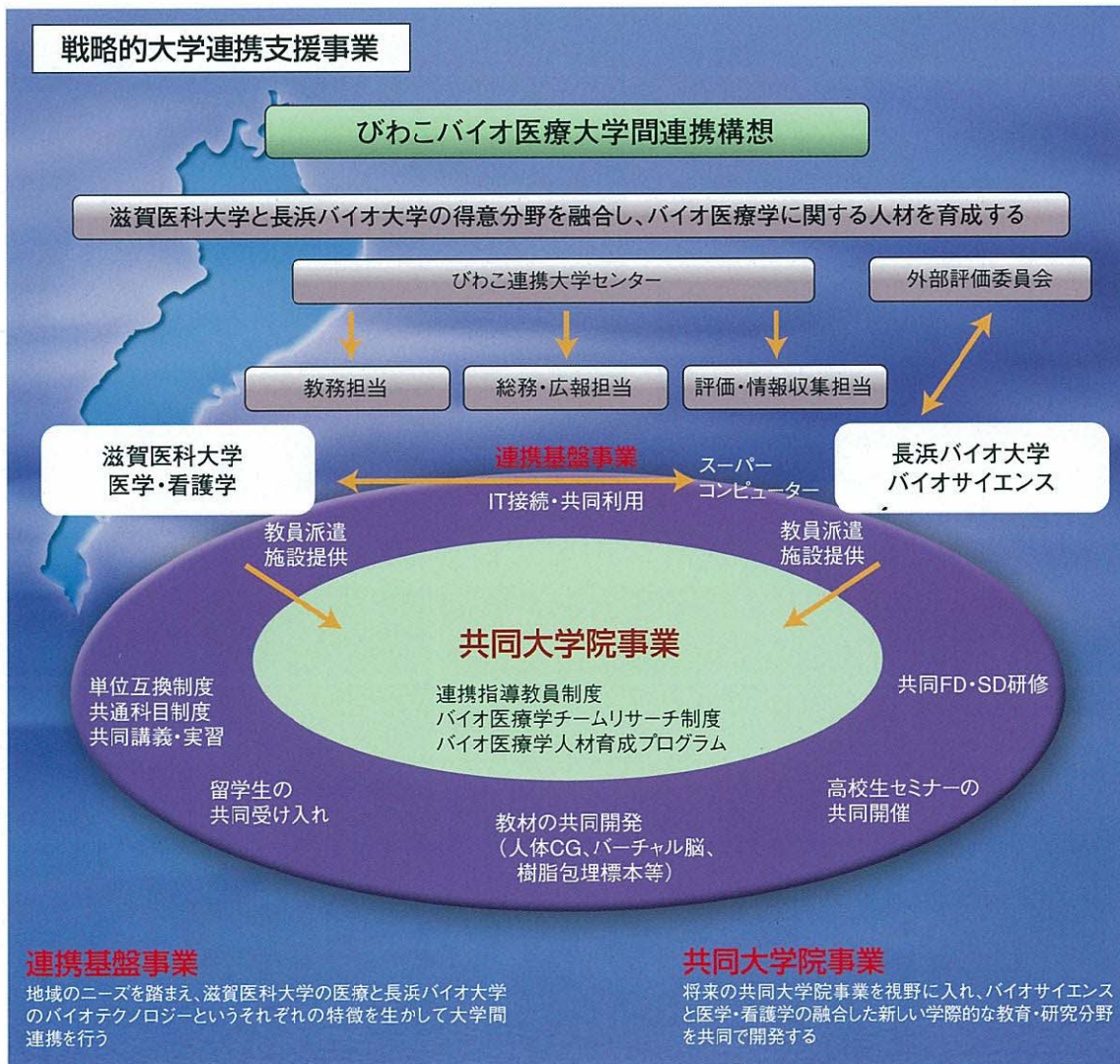
共同大学院事業では、大学の枠を超えて複数の教員が指導教員となる連携指導教員制度による教育と、医師大学院生と医師以外の大学院生がチームを組んで研究に取り組むバイオ医療学チームリサーチ制度、ならびにバイオ医療学人材育成プログラムを実施します。

将来、共同大学院が設立できれば、医学と

バイオサイエンス2つの博士号を持つ研究者を輩出することも可能です。

今後、FD・SD研修の共同実施、びわこ連携大学事務センターの共同設置、高大連携の共同実施などにも取り組みながら、産学官

共同事業を含め、滋賀県内でバイオ医療学に関する産業創出や人材の育成・供給などを通じて、地域経済の活性化に貢献していきたいと考えています。



出典：本学広報誌「滋賀医大ニュースH21.3」

役員会 TOPICS

平成22年度における医学部医学科入学定員の増員について

【理事 服部隆則】H21.09.24

平成22年度に医学部医学科入学定員が再度増員されることとなりました。その経緯と役員会での対応を報告いたします。

我が国の医学部医学科入学定員は、ピーク時(昭和56年)には8,280名であったが、その後、暫時削減され平成19年度には7,625名となった。平成16年に必修化された新医師臨床研修の実施後は、地方・地域における医師不足が深刻化したことから、平成18年度には「新医師確保総合対策」として医師不足が特に顕著な県においては10名を限度とした入学定員増が容認された。また、平成19年の「緊急医師確保対策」では、全都道府県において5名の増員、平成20年度には「経済財政改革の基本方針2008」において新たに5名の増員が決定され、平成21年度における総入学定員はピーク時の入学定員を超える8,486名となった。さらに、平成21年の「経済財政改革の基本方針2009」においても平成22年度から最大370名程度の増員が決定されたところである(これらの増員はいずれも10年間の時限となっている)。



このような状況から、本学は平成21年度から入学定員を10名増の110名(推薦入試20名、一般選抜73名、学士編入学17名)とした。このうち緊急医師確保対策による増員5名については、卒後一定期間滋賀県内の病院で勤務することを条件に滋賀県から奨学金が貸与される「滋賀県奨学金枠」として、一般選抜3名と学士編入学選抜2名に適用し選考してきた。また、「経済財政改革の基本方針2008」による5名の増員分についても地域枠選抜が求められたが、本学では平成10年度から独自に推薦入試地域枠を実施していることと滋賀県から奨学金が貸与されないことから、この増員分については一般選抜により選考を行った。

さらに、「経済財政改革の基本方針2009」による増員は、都道府県が策定する地域医療再生計画に基づき、地域の医師確保に係る奨学金を活用し、地域医療等に従事する明確な意思をもった学生の選抜枠を設定し医師定着を図ろうとする大学の入学定員について、各都道府県につき、(1)当該都道府県内の大学5名以内、(2)当該都道府県外の大学2名以内、(1)と(2)を併せて7名を超えない範囲での増員を認めるとするものである。(1)については滋賀県と協議した結果、平成22年度から奨学金を受ける「滋賀県奨学金枠」5名の増員を図ることとなった。これは一般選抜から選考する。(2)については、滋賀県以外の都道府県からの要請を受け、当該都道府県で働く医師を本学が養成するものであるが、2~3の府県から問い合わせがあったものの、最終的にはこの増員の合意は成立しなかった。

したがって、滋賀医科大学の平成22年度入学定員は、115名(推薦入試20名(滋賀県枠8名)、一般選抜78名(滋賀県奨学金枠8名)、学士入学17名(滋賀県奨学金枠2名)となる予定(平成21年12月認可予定)である

過去の役員会 TOPICS

(出典：本学HP「役員会だより H21.09.24」)

平成 22 年度入学者のオープンキャンパス参加状況

区 分	一般入試		推薦入試		合 計	
	参 加	不参加	参 加	不参加	参 加	不参加
医 学 科	10	63	13	7	23	70
	13.7%	86.3%	65%	35%	24.7%	75.3%
看護学科	20	26	7	2	27	28
	43.5%	56.5%	77.8%	22.2%	49.1%	50.9%
合 計	30	89	20	9	50	98
	25.2%	74.8%	69%	31%	33.8%	66.2%

アンケート回収 (率)

医学科	93 人	(94.9%)
看護学科	55 人	(91.7%)

2009.07.30

医学科オープンキャンパスを開催しました。

7月30日(木)午後から、医学科オープンキャンパスを開催しました。

当日は、県内外から高校生、保護者等合わせて約370名の参加がありました。参加者には入試情報やカリキュラムの説明に引き続き、「インフルエンザの迷信」「眼の不思議」と題した模擬講義により、実際の大学教授の授業を肌で体験していただきました。

一昨年から実施している学内施設見学は今年から定員を大幅に増やし、100名を超える方に参加していただき、大好評でした。また、個別相談コーナーにも多くの方に参加いただきました。



馬場学長の挨拶



カリキュラムの説明



模擬講義の様子



会場いっぱいの参加者

(出典：本学HP (H21.7.30) 及び本報告書のために作成)

サイト内検索 by Google

- 訪問者別メニュー
- 受験生の方へ
 - 在学生の方へ
 - 卒業生の方へ
 - 患者さんへ
 - 一般の方へ
 - 企業の方へ

- 健康トピックス
- 滋賀医大への支援 (寄附)
 - 情報公開・広報誌
 - 各種募集・採用情報
 - まると滋賀医大(学内)
 - Webメール
 - VPNサービス

滋賀医科大学TOP > フォトニュース一覧 > 2009.08.18 TOPへ

平成21年度

2009.08.18

滋賀県立虎姫高等学校との連携講座を開催しました。

8月18日(火)・19日(水)の2日間にわたり、滋賀医科大学・滋賀県立虎姫高等学校連携講座を開催しました。当日は、虎姫高校2・3年生24名が本学で講義等を受講しました。

1日目は、生理学講座 陣内教授による「運動調節の神経機構」、病理学講座 杉原教授による「がんからみた医学」、地域生活看護学講座 安田教授による「地域医療の現状と課題」について講義がありました。

2日目は、医学コース18名、看護学コース6名に分かれ、医学科コースでは生理学講座 松浦教授による「ラット心臓を用いた心臓拍動の調節に関する実習」が行われ、看護学コースでは、臨床看護学講座 瀧川教授による「人間関係とコミュニケーション」、基礎看護学講座 加藤教授による「人間の24時間の生活と看護」、臨床看護学講座 太田教授による「高齢者の介護」について講義がありました。



医学コースでの実習



看護学コースでの講義

(出典：本学HP「フォトニュース」)

PageTop

Data 高大連携事業

- 医学・看護学を身近に感じてもらえるように、医学や医学につながる基礎的な学問についての講義や実習を行うとともに、医療従事者の使命や働きがい、地域医療の現状と課題等についても講義を実施しました。
- 当該高校を含む県内高校からの医学科 (推薦) および看護学科 (推薦・一般選抜) への志願者・入学者は増加しました。

高大連携事業について

- 平成20年7月、膳所高校及び虎姫高校と高大連携事業の事業協定を締結しました。
- 高校生が医学に関する教育・研究に触れる機会を提供し、将来の目標実現に向け生徒の資質・能力を高めることを目的としています。



年度	高校名	授業回数	参加者数	
平成20年度	膳所高校	理数科	1	40
		普通科	6	22
	虎姫高校		2	28
平成21年度	膳所高校	理数科	1	40
		普通科	9	33
	虎姫高校		2	24

(出典：本学広報誌「6年間のあゆみ2004-2009」H22.6)

巻頭言

基礎科学研究は、生命科学講座の先生方が基礎学課程のPBLとして立ち上げ、指導していたにいたっている第2学年前期の選択科目であります。今年度は、26名の学生が参加しました。実験的研究として、脳液を扱ったもの、水質汚染について富栄養化や窒素濃度の減少を扱ったもの、また、サイエンスコミュニケーションと題して、物理学的现象を解析したもの、MRIの原理を分析したもの、また、ノーベル化学賞、生理学・医学賞を読み解いたものなど、内容は多岐にわたっています。それぞれの研究発表はよく工夫されたものであり、多くの学生が活発に議論に参加している様子に感銘を受けました。学生が自分で課題をみつけ、関連分野を研究し、理解し、批判しながら自分の考えを纏める課程がよくわかり、基礎学課程でのPBLがうまく実施されていると思われました。ノーベル賞関連の発表でピロリ菌を発見したWarrenとMarshallの業績が報告されましたが、私は胃癌の病理をライフワークと、ピロリ菌と胃癌発生との関連についての仕事も手掛けた。HIV, SARSや新型インフルエンザなどは近年新たに登場した病原体ですが、ピロリ菌のようなバクテリアが1985年頃まで発見されなかつたのは不思議なことです。Marshallがピロリ菌を飲んで病原性を証明したことはジェンナーを想起させますが、好奇心と実証が科学を進める原動力です。若い学生さん達の基礎科学研究での経験が将来の科学者の芽となることを期待しております。

今年度は、多くの学生が参加し良い論文が発表されました。今後とも、基礎科学研究が発展することを期待しております。

滋賀医科大学

理事(教育等担当)・副学長
服部隆則

基礎科学研究報告

2009

出典：基礎科学研究報告2009(H22.3)より関係箇所抜粋

滋賀医科大学図書印



0902324405

課題レポートについて

21年度科目「基礎科学研究」には、前年度に比べて多くの学生が選択し、7月に中間発表会が行われ、活発な討論が教員や学生間で行われました。その時のディスカッションを通して指摘された事項について、追加修正のうえ、今回の課題レポートとしてまとめられました。

今回も興味ある課題が取り上げられています。一つの課題について、それぞれがテーマごとに分担研究し、総合すると、課題全体が理解できるよう構成されています。

レポートは報告書に相当するもので、詳細な観察記録や情報を記述したものです。しかしながら、見出しした事象に対して他人の考えを引用するのではなく、文献などを調べた上で批判的に、自分なりの結論を述べなければなりません。ところが、論文となるとさらに独創性が求められます。また、一定の記述形式があり、1. 研究の背景、2. 目的、3. 方法、4. 結果、5. 考察、6. 結論、7. 文献となります。

本報告書のなかにも、この形成をとった課題レポートがあります。大学の学部によっては、教授を中心に学生がグループを作ってゼミナールが開催され、卒業時に論文にまとめ提出することになっています。医学科では卒業試験に合格すれば卒業となっていますが、看護学科では本論の形で毎年全員が提出したものがまとめられています。

最近、高校においても文科省がスーパーサイエンスハイスクールを選定し、生徒が自主的に課題を見つけ、研究し発表して、意見交換の上、成果をまとめることが行われるようになってきました。入学時より医学科では知識の教授が主であり、何の知識もないところに課題を与えても意味はないとの意見があります。その時の知識レベルで、また調べられる範囲内で考えることは重要であります。

医師に求められているものは、患者さんからの訴えや検査結果の読みまた、画像診断など多くの情報のそれぞれの重みと限界を考え、整理総合して方針を決定することになります。したがって、入学直後から「基礎科学研究」により、自主的な考え方を養う機会は重要と考えます。

3年後、6年後いろいろな知識を身につけて後、今取り組んだ課題を再度見直し、どこに限界があったのか振り返ることは、興味あると考えます。

最後、終始学生と共に考え、ご意見をいただいた生命科学講座の先生方に御礼申し上げます。

平成22年1月
学長 馬場 忠雄

目 次

巻頭言	理事(教養等担当)・副学長	服部隆則
課題レポートについて	学長	馬場忠雄
音楽が脳波に与える影響	井上咲花	1
ゲーム脳は存在するか	坂田正行	8
ゲーム習熟度による脳波の違い	廣坂雄介	16
睡眠時における心電図と自律神経活動	小谷敬奈	23
心電図による副交感神経活動の評価	池川貴子	29
音と光のドップラー効果・光のドップラー効果と特殊相対性理論との関係	上野大輔	37
光と音のドップラー効果・光速度不変と特殊相対性理論	野村知弘	44
ノーベル賞を読み解く 2001年・ノーベル化学賞・「不斉合成反応の開発」	池田 仁	54
ノーベル賞を読み解く 2005年・ノーベル生理学・医学賞・「ヘリコバクター・ピロリ菌およびその胃炎や胃潰瘍における役割」	小田和哉	61
ノーベル賞を読み解く 2008年・ノーベル化学賞・細胞膜に存在するチャネルに関する発見	茶谷元晴	67
ノーベル賞を読み解く 2008年・ノーベル生理学・医学賞・「HIVの発見」	種田裕明	72
ノーベル賞を読み解く 2008年・ノーベル生理学・医学賞・「HIVの発見」	西本雅和	78

ノーベル賞を読み解く 2006 年・ノーベル生理学・医学賞・「RNA 干渉の発見」

2009 年度基礎科学研究<生物学>薬類研究について	85
小型容器を用いた AGP 試験法の検討	90
塗薬濃度の減少はミカズキモの増殖および代謝活性を抑制する	98
SDS によるカマガタモの増殖阻害実験について	108
実験実習支援センター見学に参加して	113
琵琶湖の水質環境をめぐる話題	115
アオコの発生制御, 増殖阻止に関する最近の研究動向	123
水質評価法における最近の話題	131
最先端研究手法の紹介 遺伝子組み換え技術を用いて大脳基底核の神経回路を調べ	137
MRI の基礎原理 撮像から断面構成まで	144
MRI について	155
MRI の基本原理、及びその応用 ~無侵襲性と OpenMRI ~	165

基礎科学研究発表会 プログラム

編集後記

平成 21 年度 基礎科学研究 発表会プログラム

日時: 7 月 9 日 14:40 ~ 17:45, 7 月 16 日 14:40 ~ 17:20
場所: B 講義室

7 月 9 日(木) 14:40 ~ 17:45

14:45 ~ 16:25 実験的研究 脳波の周波数解析

- E1 井上咲花(A-5) 音楽が脳波に与える影響~ある軽音楽部員の脳ミーン~
- E2 坂田正行(A-19) ゲーム脳は存在するの?
- E3 岡田香瀬(B-6) 色が脳波に与える影響
- E4 廣坂雄介(B-31) ゲーム習熟度による脳波の違い

15:35 ~ 16:05 実験的研究 心拍の揺らぎの周波数解析

- E5 谷村真依(A-24) テニスと飲酒の影響
- E6 小谷教奈(B-13) 睡眠と心電図
- E7 池川貴子(B-1) 日常生活におけるリラックス度

16:15 ~ 16:35 サイエンスコミュニケーション(物理) 音と光のドップラー効果

- SC1 上野大輔(A-8) 光のドップラー効果と特殊相対性理論との関係
- SC2 野村知弘(B-28) 光速度不変と特殊相対性理論

16:45 ~ 17:45 サイエンスコミュニケーション(化学)

- ノーベル化学賞, 生理学・医学賞を読み解く
- SC3 池田 仁(A-2) 不斉触媒による水素化反応の研究
- SC4 小田和哉(A-12) ヘリコバクター・ピロリ菌の発見と胃炎や胃癌発症における役割の解明
- SC5 茶谷元晴(A-26) 細胞膜に存在するチャネルに関する発見
- SC6 西本雅和(B-27) HIV の発見
- SC7 梶田裕明(A-27) HIV の発見
- SC8 松田有史(A-39) RNA 干渉の発見

編集後記

2 学年前期に配当されている基礎科学研究は、予め定められた筋書きに沿う 1 年次の講義や実習などと違って、学生の皆さんが教員と一緒にテーマを設定し自らの好奇心や興味のもとに掘り下げるという自主性に重きを置いた科目です。今年度は履修者が多いですが、研究発表会ではプレゼンテーションを工夫して成果を披露し、ほとんどの人が最終的にレポートとしてまとめ無事終了しました。何事においても自分で考え価値判断する、いわゆる自立性は大切だと思います。基礎的な知識が必ずしも充分ではなかったかもしれませんが、自ら探した問題を自分なりに解決してみせたという経験が今後に生きることを希望いたします。

平成 21 年度世話人 物理学 吉田不空雄

- 7 月 16 日(木) 14:40 ~ 17:20
 14:45 ~15:00 実験的研究 小型容器を用いた ACP 試験法の検討
 E8 ○ 草野 淳(B-10)
 ○ 藤田朝留久(B-32)
 太田えり(A-6)
 山口勝利(B-40)
- 15:10 ~15:30 実験的研究 窒素濃度の減少はミカズキモの増殖および代謝活性を抑制する
 E9 ○ 堺 淑恵(A-18)
 ○ 端 真季子(A-34)
 高田彩花(A-21)
 下島幸香(B-19)
 E10 ○ 角田陽子(B-25)
- 15:40 ~16:10 サイエンスコミュニケーション(生物) 水環境に関する話題
 SC9 梅田康平(A-9) アオモリの発生制御, 増殖阻止に関する最近の研究動向
 SC10 小澤達志(A-17) 水質評価法における最近の話題
 SC11 西澤寛貴(A-32) 琵琶湖の水質環境をめぐる問題
- 16:20 ~16:30 サイエンスコミュニケーション(生物) 大脳基底核の謎にせまる
 SC12 中野 隆(A-30) 脳の神経回路はどうやって調べるのか?
- 16:40 ~17:30 サイエンスコミュニケーション(生命情報学)
 MRI(磁気共鳴撮像法)の原理と医学応用を学ぶ
 SC13 森 和憲(B-37) MRI の撮像原理
 SC14 市橋雄大(B-2) MRI 強調画像
 SC15 平野慎吾(A-35) 高速撮像法と MRA
 SC16 岩本久幸(A-7) MRI の無侵襲性と OpenMR

基礎科学研究報告 2009

2010 年 8 月

発行者 滋賀医科大学

520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学 生命科学講座

【大学】

3. 急性期重症患者管理学における 臨床判断能力養成事業 (文部科学省 特別教育研究経費)



グループ学習



気管挿入実習

■事業の概要

- 「急性期重症患者管理学」における学部学生等に対する教育に、任意プログラム可変型シミュレータを用いた実習を取り入れることにより、臨床判断能力の画期的な向上を目指した教育プログラムの開発を行うことを目的とした養成事業。

■事業の期間・実施主体

平成18年度～平成20年度(3年)
医療人育成教育研究センター
麻酔学講座、救急集中治療医学講座
卒後臨床研修センター
平成20年度 事業費19,270千円
(3年間の事業費総額 123,720千円)

■具体的な方策

- 急性期重症患者の管理に係る学部学生(5年生)の教育に、座学に加えて任意にプログラムを可変できるシミュレータを用いた実習を併用することにより、臨床判断能力の向上を目指した、「急性期重症患者管理学」の教育プログラムを開発し、信頼される良質な医療人を輩出する。

■評価(○成果 ▲課題)

○成果

- 従来の座学中心の知識詰め込み型のものであったが、任意プログラム可変型シミュレータを用いた実習を取り入れ、擬似的な体験をさせることにより、学生の救急医療に対する興味と積極性が増し、これまで以上に参加型臨床実習を充実させることができた。
- 本システムを活用し、急性期重症患者に対し、周術期における包括的な教育することを可能となった。
- チーム医療トレーニングについても、これらシミュレータを用いることで、各専門分野を越えた連携の大切さ、チーム医療の危機管理等についても、臨場感あふれる環境で学習させることができた。

▲課題(今後の展開)

- 5年生に対する教育のみならず、より広範囲に本システムを活用していく。
 - ✓ より低学年への導入
 - ✓ 研修医
 - ✓ 看護師を含むコメディカル・スタッフ
 - ✓ 救命救急士等

資料13

- ウェブサイトによる学外臨床実習の実習内容と評価の標準化（文部科学省 特別教育研究経費）
- ・ 学外臨床実習において学外臨床施設とのWeb情報交換・共有ネットワークを構築する。
- ・ 本システムを活用し、学内、学外臨床施設および学生間の情報共有化を図る。
- ・ また、臨床実習施設間の実習内容の標準化を図る

↓
「学外臨床実習文書管理システム」「SNSシステム」を導入し、資料収集及び必要な情報のフィードバックの迅速化を図るとともに、医療人育成教育センターが中心となり、各関係者間の情報交換及び情報の共有化を図り、診療参加型学外臨床実習の内容の充実を図る。

【test】新しい記事を作成 ■ **本学HPでの画面**

管理者(2009年10月9日 11:23) | 個別ページ

movale type より新しいブログ記事を作成すると、こちらに表示されます。

全人的医療体験学習に係る患者様訪問実習の実施について

管理者(2009年6月16日 13:40) | 個別ページ

昨年度から新生を対象に全人的医療体験学習という選択科目を開設し、このほど訪問実習先が決定いたしました。
学生は6月22日(月)以降に訪問予定日の確認について訪問実習先に連絡しますので訪問実習可能日をご検討いただけますようお願いいたします。

平成21年度 学外臨床実習における資料の提出について

管理者(2009年1月17日 14:29) | 個別ページ

平成21年度の学外臨床実習については、下記日程で計画しておりますので、学生の受入れについてご協力いただけますようお願いいたします。

記

- 学外臨床実習実施期間
前期:平成21年5月11日(月)～5月29日(金)
後期:平成21年6月 1日(月)～6月19日(金)
- 資料登録期限
平成21年2月13日(金)
- 資料作成にあたって
SNSにログインいただき文書管理システムより登録をお願いします。

SNSをご利用ください

管理者(2008年10月28日 19:25) | 個別ページ

各医療施設での実習の様子などはSNS内のコンテンツに投稿する事が可能です。
また、参加されている方同士のコミュニケーションなども行えますので、是非参加してください。
ご利用には事務局から発行されたアカウントとパスワードが必要です。
不明な点は事務局までお問い合わせください。

地域型良医育成SNS

参加されている方はこちらからログインして下さい。

ユーザ名

パスワード

[ログイン](#) [パスワード紛失](#)

メニュー

- トップページ
- お知らせ
 - 学生向け
 - 診療所
- 医療施設について
- カテゴリ
 - movies
- 【test】ウェブページ
- このサイトについて
 - 個人情報保護方針
 - プログラムの概要
 - プログラムについて
- 問い合わせ
 - 問い合わせ先
- 過去の記事一覧
- サイトマップ

検索

[このブログを購読](#)

メインページ | アーカイブ

(C) 2008 Shiga University of Medical Science

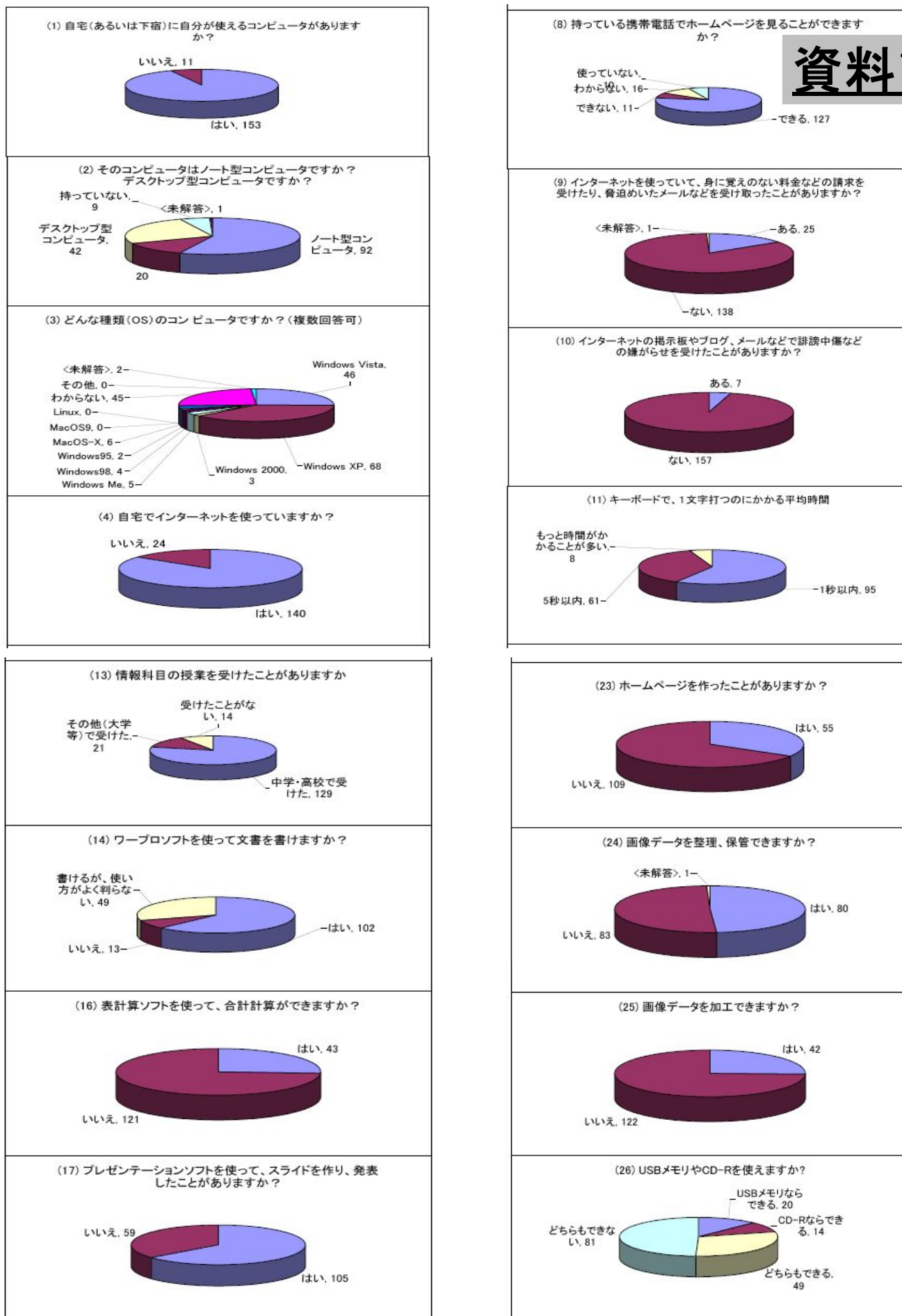
■ 成果

- ・ 本システム導入により以下の情報共有を行った。
 学生の受け入れに係る実習内容等の資料収集
 学外臨床実習協力施設の受入れ及び診療所実習の受入予定調査
 実習後のアンケート調査及び結果公開
- ・ その結果、情報共有を効率的に実施することが可能となった。

出典：本学報告書用に作成

■H21 年度新入生入学時の情報リテラシーアンケート結果(一部)

資料14



新入学生の情報リテラシー習得状況は、年々変化しており、教養教育もそれに対応してきめ細かくカリキュラムの変更が必要である。

(出典：アンケート結果一覧表(H21.6)より関係箇所抜粋)

平成22年4月14日

平成21年度授業評価の結果の解析について

医療陣育成教育研究センター
教育方法改善部門長
木村 隆英

第1期中期計画および平成21年度年度計画において、「学科教授会は学生評価・自己点検評価の結果から問題点を解析する。」としていることから、平成21年度の授業評価が終了したこの時点で、平成21年度の授業評価の結果について解析し、報告する。

平成21年度授業評価として、「学生による授業評価」と「滋賀大教育学部教員による第三者授業評価」を行った。

「学生による授業評価」は、基礎学15科目、基礎医学26科目、臨床医学28科目、看護学科12科目 計81科目を対象とした。うち、10科目は「第三者授業評価」の対象でもあり、医学科では7名、看護学科では3名の先生方に「第三者授業評価」にご協力いただいた。

教育方法改善部門において、個々の授業評価結果の内容を確認した結果、特別に問題となる授業評価、授業科目はなく、問題となる教員もないと判断した。

これら「学生による授業評価結果」および「第三者評価結果」を各教員にフィードバックし、「教員による自己評価」と「学生による授業評価に対する意見および改善策」を提出いただいた。最終的には、平成20年度同様平成21年度も、医学科、看護学科ともに100%リバックされた。また、改善策が改善策欄に記載された率は、医学科で45%、看護学科では83%であった。

このような100%のリバックは、本学の授業評価が教員に受け入れられてきたことを示しており、また、授業評価結果の内容から今のところ評価に関わる問題点はない、と総括された。

これら授業評価結果は、3～4月にかけて実施した「大学院修士課程教育に関する評価」とオリエンテーション時に行った「学生の学習に関する実態調査」とをあわせて、授業評価実施報告書第7号として本年9月に発行する予定である。昨年9月に発行の第6号および3月発行の6号別冊とあわせて、参考にしてもらいたい。

また、授業評価内容および方法等に関するご意見を教員の皆様から教育方法改善部門にくつかいいただいております。それらについて部門会議において検討した結果、授業評価の評価項目を平成22年度から改訂することにした。主な改訂は、質問項目を整理するとともに、学生の自己評価項目を増やしたことである。

平成22年度には、学生による授業評価、学生の学習に関する実態調査、修士課程授業評価、FD研修会に加えて、博士課程授業評価および新任教員に対するFD研修会を行う予定である。改めて、先生方のご協力をお願いしたい。

以上

(出典：授業評価結果報告書(H22.4.14)より抜粋)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

「スーパーナース育成」プランの概要

(本学HP 「学内向けお知らせ(H21.9.4)」)

医師不足、医療の高度化に伴う看護師の専門性や職務内容の拡大、未熟な看護技術のまま卒業してくる新人看護師教育への負担増、看護教員の看護指導力不足など、病院が抱える今日的問題を改善するために本事業の募集が行われた。

本事業は、応募事業に「看護職」という名称が使われ、かつ病院看護部が応募することとした点において、従来の文部科学省募集事業と異なる初めての試みである。事業内容には、現職看護師の教育体制を構築し、教育研修プログラム開発、質の高い看護師養成できる看護教育者の育成、看護職キャリアパスの構築、学部・大学との連携体制構築が期待されている。

全国国公立大学病院を対象に事業の募集が行われ、8施設が選定された。5年間の補助予算として98,000,000円が配分されることになる。

滋賀医科大学医学部附属病院の事業は、「スーパーナース育成プラン」と称する。臨床看護師の教育をする看護師を「スーパーナース」と命名し、看護学生から看護教員、そして臨床看護師までを教育できる看護師を養成する。

スーパーナースは、看護臨床教育センターを基点に、看護スキルラボや既設の医師臨床研修センターのスキルラボを利用し、実践さながらのエビデンスに基づいた看護教育を行う。

看護臨床教育センターでは、スーパー助産師育成コース・新人ナース育成コース・学内外教員フォローアップコース・潜在助産師等就労支援コースの設置を計画している。

将来的には地域関連施設も含めた教育体制を構築し、滋賀県下の看護臨床教育センターとして貢献したいと考えている。

滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 藤野みつ子

医学科 平成 20 年度アドバンス OSCE
ポストアンケート調査の結果

実施時期:平成 21 年 3 月 28 日(土)	本学としては、アドバンス OSCE は初めての実施であり、今後の参考とするためアンケート調査を実施したが、半数以上が有用であると評価していることが判明した。(進級判定等には利用していない。)
対象者:103 名(医学科第 5 学年)	
回答者: 94 名	
回答率: 91.3%	

I. アドバンス OSCE を行うことについて

項目	人数	%	その他を選択した者の意見
有用である	50	53.2%	* 実習の反省にはなった。 * 全員一斉に行う必要はないと思う。 * 有用でないことはないが、コストに見合わないと思う。 * 採点があるので今後の参考になったが、実施するかどうかが、興味で當惑がなかった。 * 今回 B 型インフルエンザで休んでしまったため、アドバンス OSCE について評すことはできない。電子メールでのレポートを提出させてほしい。
無駄である	7	7.4%	
その他	5	5.3%	
分からない	32	34.0%	
合計	94		

II. アドバンス OSCE に対する意見や感想

<肯定的な意見>

○ 有用であると回答した者の意見

- * 良い練習になった。
- * アドバンス OSCE の実施については非常に有用であると思う。特に、今回の実施分についてはいわゆる過去の情報が全くなかったこと、及び試験の要領がよく分かっていなかったことから、今の段階での素の診療能力が現れたのではないかと、また、短いながらもアドバンスが行われたことは、とても良いことだと思う。ただし、現在の滋賀医大(他の大学でも)似たりよったりだとは思いますが、カリキュラムでは、今回の結果が芳しくなかったのも当然かなとも思われる。なぜなら、現在の教育制度では、症候から鑑別していくアルゴリズムをほとんど教わっていないからである。3・4年生時に行われる診断学の授業は、前述のアルゴリズムを自分の中で育てて行くのにはほとんど役に立っていないのが現状(各専門領域の補習のような感じ?)だと思うし、ポリクリアル期間中でもそのようなアルゴリズムが扱われる教育機会があまりなかったように思う。もちろん、学生側にもそのような技術を身につけるための努力や意識が足りないかと指摘されれば、それはそれで認めざるを得ない。しかし、現状の教育制度では、症候から鑑別して行くアルゴリズムを育てていく意識や努力が学生側にも教育側にも足りず、それが今回の結果となったのではないだろうか。今後、アドバンス OSCE を軸として症候からの鑑別診断能力を育てる教育体制を構築させて行くことは、滋賀医大の教育体制を強化するものにすると思うし、やる気のある学生の能力をさらに高めると思う。
- * 試験されると、聞くべき項目の配置をしっかりとりする契機になるので。

III OSCE・臨床実習・臨地実習に関する評価

- OSCE
平成20年度アドバンスOSCEの受験者(医学科第6学年)対象アンケート調査の結果をまとめた(アドバンスOSCEは、今回が初めての実施である)。
- 臨床実習
医学科第30期生臨床実習および学外実習に関するアンケート調査の結果をまとめた。
- 臨地実習
看護学実習(H20.9~H21.7)についてまとめた。

(参考)

<医学科>

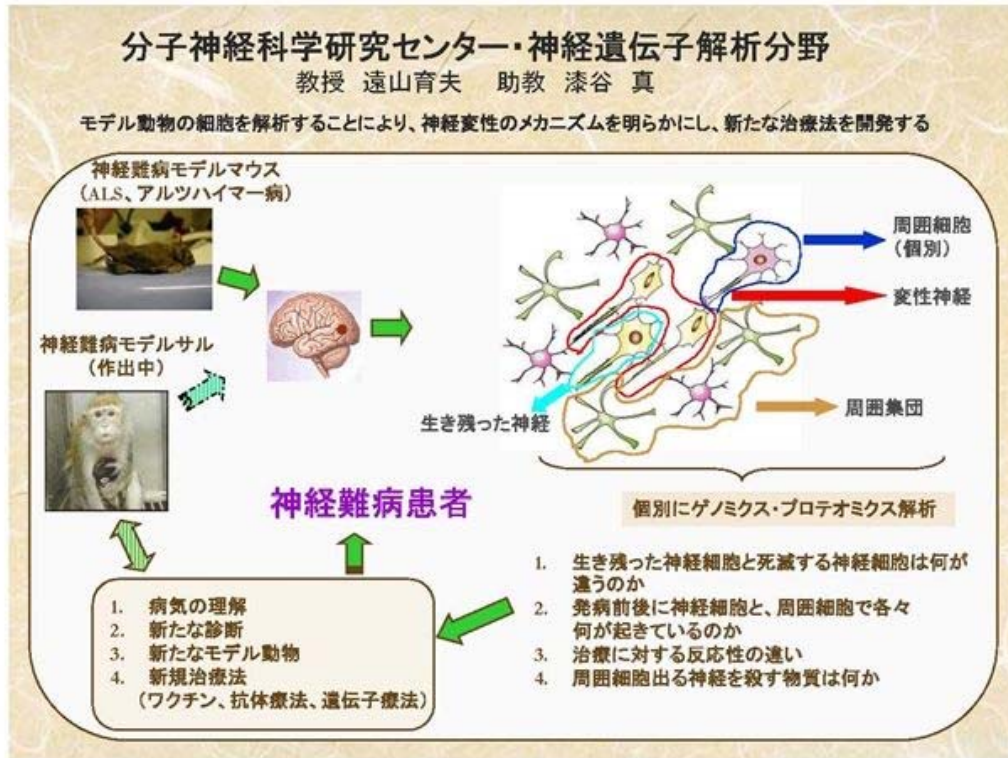
第4学年	臨床実習前科シフト・OSCE	1W
第5学年	臨床実習I部	40W
	臨床実習II部	
第6学年	アドバンスOSCE	1日
	臨床実習III部	学外アドバンスコースI期(3W)
		学外アドバンスコースII期(3W)
		学内アドバンスコースIII期(6W)

<看護学科>

第1学年	基礎看護学実習 I
第2学年	基礎看護学実習 II
第3学年	総合看護学実習 I、在宅看護学実習
第3学年	領域別看護学実習: 成人(慢性期・急性期)、高齢者、精神、小児、地域
第4学年	学校保健実習 I・II、総合看護学実習 II (看護管理実習)、 助産学実習(助産師課程)

大学院の研究紹介

分子神経科学研究センター



指導教員からの一言

分子神経科学研究センター神経遺伝子解析研究分野では、昨年、継続研究中のJST育成研究「アルツハイマー病の新規MR診断薬の開発」(代表 遠山育夫、平成19年度から21年度)、科学研究費補助金基盤研究(B)2件 パーキンソン病研究(代表 遠山育夫)、ALS研究(代表 漆谷真)に加え、NEDOの知的基盤事業採択されました。さらに、取り組み責任者として文科省に申請した戦略的大学間連携事業「パイオ医療大学連携戦略」が採択されるなど、うれしい1年となりました。これらの事業を推進するため、新たに特任教授として田口弘康客員教授を、ポスドク研究員として牧野悟士博士を迎え、スタッフも充実してきました。

さて、分子神経科学研究センターは、本年4月にいよいよ改組が行われ、神経難病研究機構・分子神経科学研究センターとして、「神経難病研究を全面に打ち出し、かつサルを用いた研究など滋賀医大の特色を生かした組織」として新たにスタートします。改組により、現在のシステム脳機能、神経遺伝子解析、神経細胞動態、脳疾患基礎の4分野から、神経難病病因学、神経難病診断学、神経難病治療学、神経難病再生学、神経難病モデルサル開発の5分野にかわります。それぞれ、神経難病を知る、神経難病を見つける、神経難病を止める、神経難病を直す、神経難病を作る、をキャッチフレーズに、神経難病の解決を目指して、研究を推進する予定です。

神経難病の解決を目指して、一緒に研究しませんか。

教授・遠山 育夫

連絡先 Tel : 077-548-2327

Mail : kinchan@belle.shiga-med.ac.jp

高度専門医カリキュラム

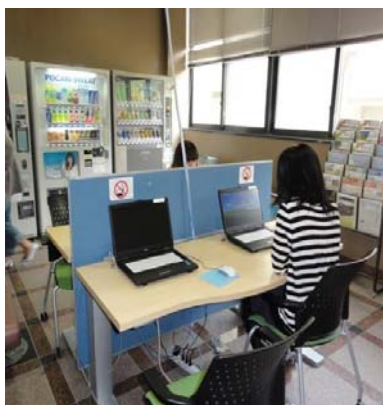
専攻	部門	授業科目名	授業年次	単位数			備考	
				講義	演習	実習		
各専攻	高度専門医養成部門科目	脳神経外科学	1・2	4			選 択	
			1・2		6			
		耳鼻咽喉科学	1・2			6		
			1・2	4				
		産科学・婦人科学	1・2			6		
			1・2	4				
		泌尿器科学	1・2			6		
			1・2	4				
		眼科学	1・2			6		
			1・2	4				
		皮膚科学	1・2			6		
			1・2	4				
		放射線医学	1・2			6		
			1・2	4				
		家庭医科学	1・2			6		
			1・2	4				
		齒科口腔外科学	1・2			6		
			1・2	4				
		臨床検査医学	1・2			6		
			1・2	4				
救急集中治療医学	1・2			6				
	1・2	4						
病理診断学	1・2			6				
	1・2	4						

(別表2) 授業科目及び単位数表(高度専門医養成部門)

専攻	部門	授業科目名	授業年次	単位数			備考
				講義	演習	実習	
各専攻	高度専門医養成部門科目	医学・医療倫理・福祉学	1・2	2			選 択
		臨床疫学・医療情報処理学	1・2		2		
		先端臨床研究学	1・2		2		
		実験動物と動物実験倫理	1・2	2			
		医療経済学	1・2	2			
		医療画像	1・2	2			
		医薬品学	1・2	2			
		病医学演習	1・2		2		
		ゲノム医学	1・2		2		
		法医学	1・2	4			
			1・2		6		
			1・2	4			
			1・2	4			
			1・2		6		
			1・2	4			
各専攻	高度専門医養成部門科目	循環器科・呼吸器内科学	1・2		6		選 択
		消化器・血液内科学	1・2		6		
		内分泌代謝・腎臓・神経内科学	1・2		6		
			1・2	4			
			1・2		6		
		小児科学	1・2	4			
			1・2		6		
		精神医学	1・2		6		
			1・2	4			
		皮膚科学	1・2		6		
			1・2	4			
		消化器・乳腺・一般外科学	1・2		6		
			1・2	4			
		心臓血管・呼吸器外科学	1・2		6		
			1・2	4			
整形外科	1・2		6				
	1・2	4					
	1・2		6				
	1・2	4					

(出典：平成21年度学生募集要項(H21.9))

○新設された機器とその利用環境風景



・看護学科棟 1階ピロティ (3台設置)



・一般教養棟 3階マルチメディア教室

■平成 20・21 年度附属図書館・マルチメディアセンター特別利用実績

	学部学生	大学院生	研究生	教官	技官	事務官	医員・研修医	その他	関連病院	合計
H20 年度	21,330	369	11	532	585	310	1,134	1,225	35	25,531
H21 年度	26,813	247	8	449	748	339	899	1,493	48	31,044

○H21 年度における 24 時間利用可能端末の利用記録

時刻別ログイン数分布		使用時間(ログイン時間)分布	
時刻	ログイン数	使用時間	延べ利用者数
0	1162	0分～10分	28643
1	528	10分～20分	25793
2	309	20分～30分	18851
3	191	30分～40分	14470
4	198	40分～50分	10924
5	376	50分～60分	9524
6	1003	1時間～2時間	38862
7	4227	2時間～3時間	17410
8	10575	3時間～4時間	10467
9	10953	4時間～5時間	7038
10	14731	5時間～6時間	1064
11	10584	6時間以上	2302
12	23140	総利用者数	185348
13	16232	延べ利用時間: 169022 時間	
14	16918	1回あたり平均使用時間: 54 分	
15	13819		
16	17414		
17	12523		
18	8897		
19	6963		
20	5167		
21	4123		
22	3185		
23	2130		
総ログイン数	185348		

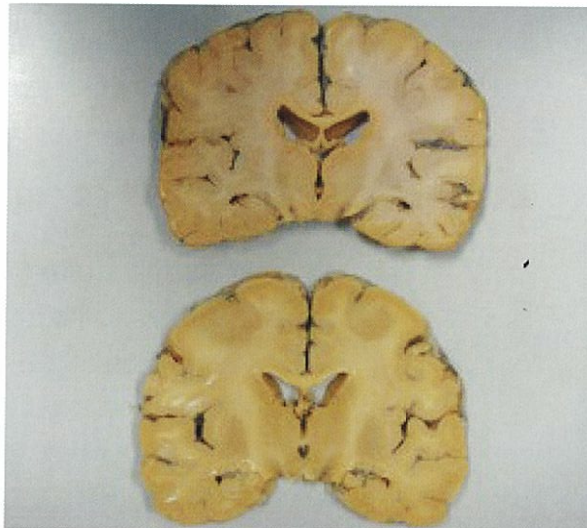
■夜間 (20:00～8:00) の利用が全体の約 12%を占める。

(出典：本報告書用に作成) H22. 6

資料21

特色ある教材開発

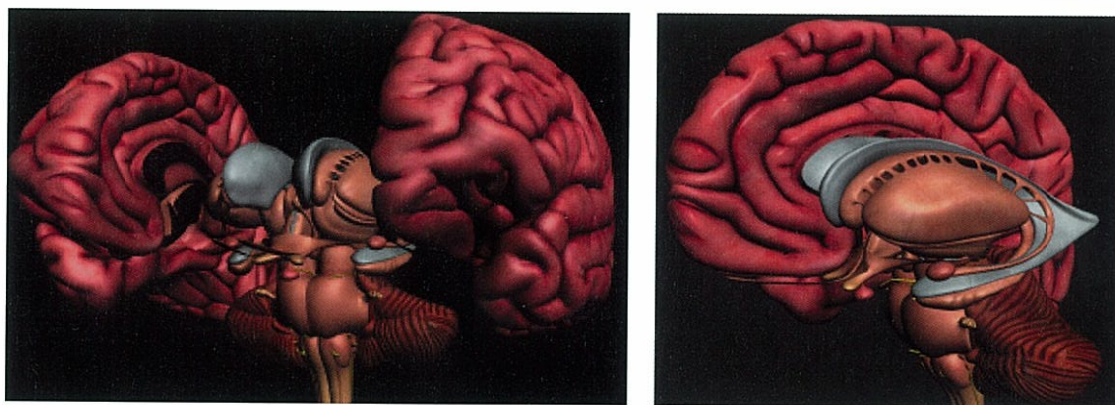
脳などの臓器の樹脂包埋標本の作製



樹脂包埋標本の作製

臓器の形や色をできるだけ保ったまま樹脂に包埋することで、ホルマリン臭のない臓器標本を作製します。本年度は、脳の包埋標本を作製しました。こうすることで安全性が高まり、一般の教室などでヒト臓器を用いた解剖実習が可能になります。

臓器の3D立体画像



脳の3D解剖画像

コンピュータグラフィクスを駆使し、臓器の3D解剖教材を作製します。本年度は、脳の3D画像の作製に取り組みました。学生にとって、臓器の構造を3次的に理解することが容易になり、教育効果が高まると期待されます。

医療人育成教育研究センター教育方法改善部門会議主催
授業評価に関するFD研修会

ハンドブック」玉川大学出版部のうち大塚教授が担当された「授業評価Q&A」の最終稿が配布された。

4. 講演内容

主として、次の4点についてご講演をいただいた。

- (1) FD義務時代におけるFDの課題
大学設置基準の改正
- (2) 授業改善と学生の授業評価
FD (Faculty Development) とは、改善とは、組織的とは
学生の授業評価能力とは、何が授業改善か
ご自身が実施された毎回授業評価の結果と改善の実践例の紹介
- (3) FD 共同体の形成による授業改善
「組織的」の捉え方、授業評価の利用法、FD 共同体の形成
- (4) 改善と成果の表現のための評価
改善と説明責任の両立の困難さ、教育の成果とその評価、大学独自のFD文化の形成

プログラム

時間	項目
16:30~	開会の辞・講師紹介 服部 隆 則 教育担当副学長
16:35~	講演 京都大学高等教育研究開発推進センター 大塚 雄 作 教 授
18:00~	質疑応答 司会：木村 隆 英 教育方法改善部門長
18:20~	閉会の辞 馬場 学生課長



【大塚先生講演風景】

1. 概要

本学では、平成12年度から学生による授業評価を実施しており、教員からの意見・反論などを学生にリハックすることにより、双方向の評価を行ってきた。

本FD研修会は、大塚雄作先生の理学部物理学科ご出身という理系センスの上に培われた教育心理学に基づき、大学入試センター研究部、放送開発センターという理系センターの教育開発センター研究部、大学評価・学位授与機構評価研究部、そして、現在ご所属の京都大学高等教育研究開発推進センターにおけるご経験を踏まえて、「学生による授業評価を如何に授業改善に結び付けてゆかか」をご教示いただくことを目的として開催したものである。

2. 参加者

臨床医学および看護学科の先生方には他の会議と一部重なったにも係らず多数ご出席いただいた。

職階別に分類すると、副学長1名、教授14名、准教授13名、講師2名、助教・学内講師11名、助手2名、外国人講師1名、事務局職員4名、その他3名であった。

3. 配布資料

講演資料(12頁)のほかに、参考資料として、山地弘起(編著)2007「授業評価活用

5. 成果

授業評価やFD講演会といった定型的FDのみならず、授業評価から普段何気なく行っている教育談話の場をFD共同体として捉え、また、それを大学がどう支援できるかを考えて行かなければならないとご指摘をいただいた。

出席者がそれぞれに自分の授業経緯と結び付けながら、授業改善について考えることができ、掲げた目的は十分に達成することができたと考えられる。

(文責 教育方法改善部門長 木村隆英)

医療人育成教育研究センター教育方法改善部門会議主催
授業評価に関するFD研修会

テーマ：「FDと授業評価について - 京都大学での経験 -」

日時：平成22年1月19日(火) 17:30～19:00
 場所：看護学科棟 看護第1講義室
 講師：京都大学大学院医学研究科医学教育推進センター 平出 敦教授
 参加者：36名(副学長1名、基礎学3名、基礎医学11名、臨床医学6名、看護学科14名、
 研究センター1名)

プログラム

時間	項目	日
17:30～	開会の辞・講師紹介	
17:35～	講演 京都大学大学院医学研究科医学教育推進センター	
18:40～	質疑応答 司会：湯浅賢一 学生課長	
18:55～	閉会の辞 木村隆英 教育方法改善部門長	

1. 概要

本学では、平成12年度から学生による授業評価を実施しており、教員からの意見・反論などを学生にリバックすることにより、双方向の評価を行ってきた。

本FD研修会は、臨床医というお立場で、京都大学大学院医学研究科医学教育推進センターにおいて医学教育の改革に直接携わってこられたご経験を踏まえて、京都大学医学部において「学生による授業評価」を如何にして立ち上げ、医学教育改善に結び付けてこられたかをご教示いただくことを目的として開催したものである。

2. 参加者

今回の研修会は、参加いただきやすいように開始を午後5時半に遅らせたが、36名の参加にとどまった。
 職階別に分類すると、副学長1名、教授12名、准教授8名、講師4名、助教・学内講師6名、助手3名、医員・技師2名であった。

3. 配布資料

平出先生から、FDについて、全国の大学の授業評価の実施状況、GPAについて、京大のFDについて、京大医学部の授業評価についての講演資料(32頁)が配布された。

4. 講演内容

主として、次の3点についてご講演をいただいた。

- (1) 全国の大学の授業評価の実施状況について
 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室資料
- (2) 京都大学の全学のFDの取り組みについて
 全学での公開授業
 全学授業評価ワークショップ
- (3) 京都大学医学部の授業評価について
 評価項目に対する考え方
 評価システム
 総合評価の年次推移

(講演風景)



5. 成果

京大医学部において学生による授業評価を立ち上げる際、教授会において大いに議論され、評価項目に対する考え方として、講義技術や学生の理解度(授業内容を理解できたか)のみならず、発見(新しい概念や考え方に触れることができたか)、興味度(好奇心を刺激されたか)、満足度(インパクトがあり知的感動をおぼえたか)に重点を置くことになったとのことであり、ここに滋賀大学の評価方式との違い、考え方の違いがあることが見出された。

出席者がそれぞれに自身の授業評価を思い浮かべながら、授業評価のあり方、さらには教育改善について考えることができたと考えられる。

(文責 教育方法改善部門長 木村隆英)